

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
第 18 期(2017 年 7 月～2018 年 6 月)通常総会
議案書

- ・第 1 号議案 第 17 期(2016 年 7 月～2017 年 6 月)事業報告
- ・第 2 号議案 第 17 期(2016 年 7 月～2017 年 6 月)決算報告
- ・第 3 号議案 第 18 期(2017 年 7 月～2018 年 6 月)事業計画
- ・第 4 号議案 第 18 期(2017 年 7 月～2018 年 6 月)予算
- ・第 5 号議案 役員選任
- ・第 6 号議案 定款変更

日時:2017 年 8 月 19 日(土)16:00～17:30

場所:はまどま(横浜市南区宿町 2-40-119)

第1号議案 第17期事業報告（2016年7月～2017年6月）

第17期は、竹にかかわる活動に拡がりが見られたほか、助成金・寄附金を活用した人材育成、普及啓発活動を実施でき、今後の活動展開に向けた準備を進められた。

一方、現行のセカンドステージへと移行した2008年改革以降、全体の参加者数は初めて減少した。特に「はまどまプロジェクト」は、「もったいないから竹細工（竹細工工房）」以外、参加者数を減らしており、「はまどま」の運営方法の改善、施設的な改修なども含めて、大きな改革が必要となっている。また、スタッフの平均年齢は、ほかの里山保全団体に比べると低いとはいえ、年々高まっていることも課題である。あらためて、中長期計画の策定、資金調達戦略や広報戦略の再検討、組織運営体制の変革、新しい連携先の開拓などが必要となっている。

さいわい、第17期は受託事業収入や寄附金・助成金が予算よりも多く、3期連続で黒字となって財務的な体力もついてきた。サードステージへの新しい展開を検討するには良い時期にあるだろう。

「里山とかかわる暮らし」を実践・提案するのと並行して、「里山をいかすシゴトづくり」を推進し、人間社会と里山とがともに持続可能なかたちで共生できる仕組みづくりを模索したい。

自主事業

里山（樹林地や農地等）の保全・活用、里山と人をつなぐ活動

1. ヤマ事業（協力：プルデンシャル生命保険株式会社）

1) NORAの山仕事（平成28年度林野庁森林・山村多面的機能発揮対策交付金、平成29年度一般社団法人セブンイレブン記念財団環境市民活動助成）

第17期は、「森の中で憩える空間」づくりの一環として、間伐後に放置して腐食してしまった材の回収および焼却処分を積極的に実施した。セブンイレブン記念財団市民活動助成金により、クローラー式運搬車を購入できたので、材の回収などにおいて参加者の負担を軽減できた。間伐材の保管方法についても、材を雨から守るための保護屋根を4基（皮むき用・製材用・焼き丸太用・薪材用）設置することで改善できた。材の利活用については、間伐した丸太を製材し、作業デッキの床板施工まで終えることができた。また、定例活動以外に「やま守り編」を継続して補足作業をおこなったほか、はまどまプロジェクトとの連携や社会福祉法人どろんこ会の受け入れなども実施した。さらに、2017年2月～3月、東洋ガラス機械株式会社から4名の参加者があり、地元企業との連携も継続している。

参加者数は、定例活動が雨天のため3回中止となったために、のべ222名（昨期257名）となったが、1回当たりの平均参加者数はほとんど変わらなかった。一方、やま守り編の参加者数は、のべ93名（昨期39名）と大幅に増加した。これは平均参加者数が3.6名（昨期1.6名）と大きく増えたことによる。来期は、腐食材の回収処分を継続させるとともに、作業デッキの完成、遊歩道の新設などにより、「森の中で憩える空間」づくりを充実させたい。

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/10（日）	除伐、下草刈り、間伐材の利活用	10	1
7/24（日）	植生調査、落ち葉収集、間伐材の利活用	10	1
8/14（日）	樹名板づくり、焼き杭づくり、間伐材の利活用	7	1
8/28（日）	風倒木処理、間伐材の利活用、草刈り	5	1
9/19（月祝）	間伐材の利活用、林内散策	7	1
9/25（日）	草刈り（桜井邸遊歩道・第2植林地）、ウッドデッキ施工	11	1

10/9 (日)	下草刈り (製材エリア・遊歩道)、間伐材の利活用	4	1
10/23 (日)	丸太の皮むき、薪割り、間伐材の利活用 (板材加工)	9	1
11/13 (日)	若手リーダー研修、間伐材の利活用	9	1
11/27 (日)	間伐、間伐材の利活用	9	1
12/11 (日)	間伐材の利活用 (板材厚さ調整)、植林地草刈り、植林準備	3	1
12/25 (日)	デッキ基礎、橋の基礎	11	1
1/8 (日)	焼き丸太、材の集積、選木、材の利活用	7	1
1/22 (日)	若手リーダー研修、間伐材の利活用	17	1
2/12 (日)	リーダー研修、間伐材の利活用	9	1
2/26 (日)	運材、皮むき、竹林フェンス際除伐 (よこはま里山レンジャーズ)	24	1
3/12 (日)	間伐材の運材、チップ敷き	10	1
4/23 (日)	クヌギ苗の移植、間伐材の利活用	9	1
5/14 (日)	間伐材の移積・利活用、保護屋根の車輪取付け	11	1
5/28 (日)	間伐材の移積・利活用 (床材の加工・貼り付け)	10	1
6/11 (日)	間伐材の移積、間伐材の利活用 (防腐処理)	9	1

※3/26 (日)、4/9 (日)、6/25 (日) 雨天中止

201

21

【やま守り編】

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/2 (土)	草刈り (間伐エリア、苗場フェンス外など)	1	1
7/18 (月)	焼き丸太作り、丸太の皮むき、苗の定植準備	6	1
7/31 (日)	焼き丸太防腐材処理、苗の定植準備 (落ち葉埋め戻し)	2	1
8/7 (日)	下草刈り、丸太の皮むき	4	1
8/21 (日)	竹林整備、下草刈り	6	1
9/19 (月祝)	草刈り (畑隣接フェンス沿い)、WD 施工、雨のため 13 時まで	5	1
10/15 (土)	トタン板サビ落とし、塗装	1	1
10/30 (日)	ホダ木支柱の補修・間伐前の選木・薪材整理・保護屋根材の塗装	2	1
11/6 (日)	薪割り、保護屋根づくり	3	1
11/21 (月)	保護屋根施工	0	1
12/4 (日)	保護屋根仕上げ、デッキ基礎運搬	5	1
12/17 (土)	デッキ基礎、橋の基礎	1	1
2/18 (土)	腐食材の集積&焼却	2	1
2/20 (月)	チップ化支援立会い	0	1
3/4 (土)	チップ化支援作業、焼き丸太	2	1
3/18 (土)	フェンス林縁部機械除草、雑草抑制施工	1	1
3/31 (金)	(社福) どんこ会受け入れ	8	1

4/2 (日)	丸太の皮むき、焼き丸太、保護屋根躯体	1	1
4/5 (日)	保護屋根躯体づくり	0	1
4/15 (土)	苗場下草刈り、保護屋根躯体づくり、板材加工	2	1
5/3 (水祝)	間伐材移積、苗場草刈&草取り、車輪取り付け	5	1
5/5 (金祝)	クヌギ苗確認、防腐処理、間伐材移積、自然薯草取り、	7	1
5/8 (月)	土留め材ボルト止め、板材移積	0	1
5/20 (土)	苗場フェンス外草刈、自然薯定植、タラの芽切り戻し	0	1
6/3 (土)	林縁部フェンス外・自然薯の草取り	1	1
6/17 (土)	林縁部フェンス外・自然薯の草取り	2	1

※1/29 (日) はまどま連携ワークショップ開催。

67 26

2) よこはま里山レンジャーズ (連携：認定NPO法人自然環境復元協会 (NAREC))

本事業は、里山保全活動を始めようとする主に若い世代と、活動支援を必要としている既存の活動団体をつなぐマッチングプログラムである。NARECの「レンジャーズプロジェクト」に登録したボランティア「レンジャー」(約2,200名)に対し、活動内容が調整されたフィールドから出動要請が発信され、参加を希望した「レンジャー」は10~20名程度でチームを組んで訪れるため、見知らぬ団体の活動であっても参加しやすいという長所がある。

5期目を迎えた第17期は、NORA関係者と関わりの深い市内6か所のフィールドにおいて、のべ8回実施し、のべ81名(昨期13回実施、156名参加)の参加があった。後述の里山保全ボランティアの若手現場リーダー育成研修の実施にともない実施回数が減少したことから、参加者の減少につながっている。しかし、参加者は初心者だけでなくリピーターも多く、各世代からの参加もあり、世代を超えた活動として役割も拡大しつつある。

回	実施日	実施場所	受入団体	参加者
1	7/23 (土)	新治の谷戸田	NPO法人新治里山「わ」を広げる会	10
2	9/24 (土)	入船公園	(株)日産クリエイティブサービス	5
3	10/29 (土)	瀬上市民の森	瀬上さとやまのりの会	8
4	11/20 (日)	恩田の谷戸	恩田の谷戸ファンクラブ	9
5	2/12 (土)	瀬上市民の森	瀬上さとやまのりの会	12
6	2/26 (日)	川井緑地	NPO法人よこはま里山研究所	14
7	5/27 (土)	新治の谷戸田	NPO法人新治里山「わ」を広げる会	6
8	6/10 (土)	元町公園プール	横浜にとんぼを育てる会	17

81

3) 竹を活かす山仕事 (平成28-29年度神奈川県水源環境保全・再生市民事業支援補助金)

手入れが行き届かなくなった竹林は拡大して、農耕地や生活環境を侵食するなど、里山の景観に大きな影響を及ぼしている。竹林を手入れすることで畑を守り、里山生態系のバランスを保つために、原則月1回、中井町でお世話になっている農家と中井町の町有地で竹林を整備した。

第17期では、今まで活動してきた民有地に加え、町有地でも竹林整備に着手した。また、神奈川県補助事業に採択されたことで、安定した活動を継続できた。「もったいないから竹細工」の参加者が、この活動にも定着したことにより、参加者数ものべ94名(昨期84名)と増加した。

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/17 (日)	材の伐り出し、除伐	8	1
8/21 (日)	竹林整備、下草刈り	3	0
10/16 (土)	間伐、材の伐り出し、マーキング	8	1
11/20 (日)	間伐、材の伐り出し	8	1
12/18 (日)	間伐、材の伐り出し (門松準備)	9	1
1/15/ (日)	間伐、材の伐り出し	5	1
2/19 (日)	間伐、材の伐り出し	6	1
3/19 (土)	間伐、材の伐り出し	6	1
4/16 (日)	間伐、材の伐り出し	11	1
5/21 (日)	間伐、材の伐り出し (民・町有地)	10	1
6/18 (日)	間伐、材の伐り出し (町・民有地)	10	1

※9月は活動を休んだ。 84 10

4) 山道具の安全使用

株式会社シンコー社とサブ店契約を締結 (2011年6月) してから、チェーンソーメーカー (スチール STIHL) の代理店業務を担い、より安全性を高めた緑地保全活動用の機材使用の啓発をすすめている。

第17期は、関係する森づくり団体や山仕事の参加者などへ、良質なチェーンソーを市価より安く販売するとともに、チェーンソーのオーバーホール、バイオチェーンオイルや安全チャプスなど環境と安全に配慮した物品類を供給することができた。実績としては、チェーンソー2台、バッテリー式刈り払い機1台、バッテリーヘッジトリマー、トンガ・ヘルメット・チェーンオイル等を販売したほか、刈払機の修繕を扱った。

5) 里山保全ボランティアの若手現場リーダー育成研修 (平成28年度「緑の募金」公募事業)

里山で活動する若手をターゲットとして、里山保全に必要な技術、作業グループでの指導力修得などを目標に、公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」を活用して標記研修を開催した。

活動経験者にとっては里山保全活動の安全意識を高められたほか、「NORAの山仕事」に参加しているリピーターにおいても、作業前の安全確認を的確に行う必要性を再認識することができた。参加者の中には、市内の里山保全団体に新たに加入して活動を開始した人が現れたという効果もあった。

一方で、目標としていた参加者 (各回15名) を満たすことができず、今後は一般参加者をさらに増やす方法を検討する必要がある。今回実施した講習会は、里山保全活動の入門編として位置づけたが、安全管理については継続的に受講することが望まれるため、プログラムの目的を明確にして、経験者も含めて参加を呼びかける必要がある。

回	実施日	実施場所	内容	参加者
1	11/13 (日)	川井緑地	里山とその保全の意義について 手工具を安全に扱うための実習	6
2	12/10 (土) 12/11 (日)	新治里山公園	里山ボランティアの現場リーダー論と安全管理等 コミュニケーション技術、里山保全活動プランニング	14
3	1/22 (日)	川井緑地	チェーンソー研修	10

			チェーンソーを安全に扱うための実習	
4	2/12 (日)	川井緑地	グループ KY(危険予知)活動 伐木実践研修、危険予知と伐木実習	10

40

6) まちの近くで里山をいかすシゴトづくり (協力：株式会社かんぼ生命保険)

(1) 公開研究会「里山を保全する持続可能な仕組みづくりに向けて」

2016年10月30日(日)、永山公民館(ベルブ永山)にて、恵泉女学園大学研究プロジェクトと共催した。登壇者として、里山保全活動のパイオニア・中川重年さんをお招きしたほか、NPO法人、公的支援団体、自治体、大学という各主体からの話題提供の後で、パネルディスカッションをおこなった。

参加者は48名(スタッフ6名・講師5名込み)。標記課題の解決に向けたアプローチとして、①若手リーダー育成、②里山シゴトづくり、③政策提案(規制緩和)という3つを整理できたのが収穫だった。

(2) まちの近くで「里山とかかわる仕事と暮らし」フォーラム

2017年2月5日(日)、多摩市立グリーンライブセンターにて、恵泉女学園大学研究プロジェクトと共催した。昨年1月に開催した連続ワークショップの続編という位置づけだったが、今回はシゴトづくりに特化せずに暮らしも含めて、生き方そのものを考える機会とした。前半は、特別ゲストに大阪から寺川裕子さん(NPO法人里山倶楽部)をお招きしたほか、横浜～多摩地域で里山資源をいかした仕事をしている若手6名にも話題を提供していただき、後半は登壇者7名を囲んでのワールドカフェを3ラウンドおこなった。

参加者はスタッフ・登壇者込みで50名、そのうち20～30代は半数の25名を数えた。閉会後の懇親会にも35名が参加して交流を深めた。

これらイベントの開催で得た手応えをもとに、本プロジェクトの方向性を3つに整理した。①シゴトづくりの実践者・関心層によるネットワークづくりであり、これはメーリングリスト[satowork]に集うようにしている。②シゴトを通じた物・サービスを扱う市場づくりであり、まずはネット上でのプラットフォームづくりを検討している。③シゴトづくりを促す環境づくりであり、これは行政の制度設計にかかわったり、よりテーマを明確にした協議会を設立したりするなどが考えられる。

7) 『ミルマップ・ワークショップ』ウェブ公開

2017年2月、ウェブ上に公開してfacebookで広報したところ、リーチ数が1,800人を超え、ダウンロード数は17件となった。

2. ノラ事業

1) 森と畑と音楽と

丹沢東麓に位置する厚木市の里山における活動で、2013年秋、若い世代でこの場所を活用できないかとの相談を受け、2014年から手探りでスタートした。活動の目的は農地管理が第一だが、参加者を増やすために様々な仕掛けが必要となる。そこで、「自然の中での様々な活動を通じて、幅広い年齢層、異分野の人々が集い、有機的に結びつく空間の創造」を目標として、この土地に多くの人が関心を持ち、活動に来ることが楽しいと思える活動を行い、長期的に関われるシステムをつくりたい。

第17期は、これまでと同様に畑を中心として、野菜の栽培と収穫したばかりの野菜を使って昼食作りをおこなった。このほか、新たに3つのプロジェクトがスタートした。

1つは稲作である。稲作を続けてこられた方が高齢のために引退して、耕作者を探していたところ、

話が来たので引き受けることにした。緩傾斜地に小規模の田んぼが4枚、総面積およそ1反である。うるち米ともち米を栽培している。田植え体験参加者が、のべ42名と活動に対する宣伝効果にもなっている。水田近くに住む農業高校生ともつながり、継続的に参加を表明してくれている。2つ目は、譲り受けた伐採樹木を保管するストックヤードとしてフィールドを活用することである。現在、運び込んだ木材を乾燥させているところだが、今後は加工してクラフトの材料として利用するしくみをつくっていききたい。3つ目は、ウェブサイトの作成である。ブログ形式のホームページをつくり、イベント等の活動があった場合には報告代わりに更新するようにしている。

今期は樹木を利用する活動が増え、「森」が充実してきたことに加え、活動にあわせて様々な「音楽」を奏でる機会が増え、活動4年目でようやく「森と畑と音楽と」の名にふさわしい活動となってきた。

活動日はのべ72日（昨期77日）で、週1日～2日程度のペースで活動をおこない、のべ参加人数は367名（昨期494名）となった。今期も中学生や大学生、家族など多様な参加者が見られた。水田を耕作することになってからは、必然的に活動日数も増えて労力を費やした。次年度からは機械の調達等を中心にハード面での整備をおこなっていききたい。

実施日		回	活動内容	参加数
7月	3（日）、17（日）、24（日）、31（日）	4	草刈り、草取り、収穫、BBQ、野菜苗植え	12
8月	6（土）、7（日）、10（水）	3	草刈り、草取り、水やり、収穫、播種、野菜苗植え	11
9月	4（日）、11（日）、18（日）、25（日）	4	草刈り、草取り、収穫、播種、BBQ	10
10月	2（日）、9（日）、16（日）、23（日）、30（日）	5	収穫、播種、野菜苗植え、BBQ	25
11月	6（日）、13（日）、23（水祝）	3	草刈り、収穫、野菜定植、伐採、薪作り、BBQ	15
12月	4（日）、11（日）、18（日）、31（日）	4	収穫、ミーティング（反省会）、BBQ	18
1月	7（土）、8（日）、15（日）、22（日）、23（月）、29（日）	6	収穫、薪割り、木材運搬、BBQ、スモーク	24
2月	4（土）、12（日）、19（日）、26（日）	4	収穫、BBQ、水田の見学、地域作業所見学	18
3月	4（土）、5（日）、8（水）、12（日）、13（月）、19（日）、20（月）、28（火）、29（水）、30（木）	11	野菜苗植え、収穫、BBQ、薪割り、大鋸挽き体験、子どもキャンプ（38名）、製材、水田耕耘、畦波板設置、堆肥鋤き込み	81
4月	2（日）、4（火）、6（木）、16（日）、18（火）、23（日）、24（月）、27（木）、30（日）	9	野菜苗植え、収穫、BBQ・音楽会イベント（23名）、畦塗り、稲苗準備、耕耘	51
5月	1（月）、2（火）、3（水祝）、5（金祝）、11（木）、12（金）、14（日）、20（土）、21（日）、28（日）	10	草刈り、野菜苗植え、稲苗準備、収穫、製材、BBQ、水路清掃、田んぼの作業	38
6月	4（日）、5（月）、6（火）、11（日）、12（月）、13（火）、15（木）、18（日）	9	草刈り、野菜苗植え、収穫、田植え体験・音楽会イベント（計3回 45名）	64

	(日)、24 (土)			
--	------------	--	--	--

持続可能な地域コミュニティづくり、暮らしの提案、イベントの企画・運営

3. ムラ事業

1) はまどまプロジェクト

「はまどま」発足後、2017年6月で丸9年が経過した。街なかの里山の入り口、里山を暮らしに活かす実践の場として、多様な企画を実現できた。地域の皆さんの暮らしに役立つ場としても、宮宿花1・2丁目町内会、蒔田公園愛護会、大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなあど」実行委員会などに参加し、信頼関係を積み重ねてきた。第17期では、川井緑地での取組みと連携して、森で過ごす企画に着手した。南太田小学校「おやじの会」への流し素麺用の竹の提供と、光のぷろむなあどでの共同作業のほか、横浜建設一般労働組合との共同作業など地域との繋がりが進んでいる。睦ケアプラザでの「わいわい食堂（こども食堂）」への農産物の提供を始めたが、生産者に協力を要請して、生産者と食堂スタッフをつなぐ機能として地域の皆さんにNORAのことを意識していただいている。

(1) NORA 野菜市

毎週火曜日 17～19時、大和ビル駐車場にて、神奈川県内・生産者限定の野菜市として開催し、2017年暮れには丸13年になる。この間、福島第一原子力発電所の事故による放射線汚染という重大な被害を経て、TPP/FTAなど貿易交渉の行方次第では日本農業の崩壊という危機にある。日本の食糧自給率はカロリーベースで38%となり、農業の担い手の一層の高齢化と、事態はいよいよ深刻だ。国の農業政策は規模拡大を求めているが、食糧自給率目標は45%に引き下げられても、上昇の可能性は感じられない。

日々の暮らしに欠かすことのできない食糧を、身近な交流できる生産者から得ながら、安心・安全な食糧生産ができる「環境」に暮らせることの意味を問い続けている。第17期では、若い世代、乳幼児を育てる世代が野菜市を利用される傾向がはっきりしてきている。

(2) 生産者の心とともに季節を味わう～神奈川野菜の食事会

第17期は主宰者の都合により開催が困難だった。3回（昨期5回）実施して、参加者数は21名（昨期95名）だった。昨期に第100回を25名の参加を得て開催できたことでもあり、「生産者の心とともに季節を味わう～神奈川野菜の食事会」として再構築し、農業・食糧のことなど少しずつでも学習する機会を設けていくことにした。

回	実施日	内容	参加者
105	10/2 (日)	神奈川野菜の食事会	5
新1	5/20 (土)	生産者の心とともに季節を味わう～神奈川野菜の食事会	6
新2	6/17 (土)	生産者の心とともに季節を味わう～神奈川野菜の食事会	10

※7/31 (日)、9/4 (日)、5/7 (日) 「薬膳で神奈川野菜の食事会」を開催 21

<NORA ちゃぶ>

火曜日のNORA野菜市の際に、野菜を買いに来た人、ご飯を誰かと食べたい人、何か話をしたい人、旬の野菜を食べたい人が、身体とお酒と何か話題を1つ持って集まろうと企画した。従来の食事会よりも気軽でありながら、NORAらしさを忘れないように配慮した。

実施日	内容	参加者
5/23 (火)	神奈川野菜で晩ごはん	8
6/30 (土)	夏越のごはん会～雑穀ごはん、夏野菜のかき揚げ(番外編)	9

17

(3) もったいないから竹細工(平成28-29年度神奈川県水源環境保全・再生市民事業支援補助金)

里山では手入れされなくなった竹林が生い茂って、邪魔物として扱われている。かつては有用だった竹を生かせないのはもったいない。そこで、竹林整備の際に出てくる竹材を有効に生かすために竹細工を製作している。毎月第2土曜日開催の竹かご教室では、講師に指導を受けながら、六つ目編みを基本とした竹かごを全12回で7作品をつくる。第3木曜・第4土曜日開催の竹細工工房では、竹かごを編むための竹ひごの準備のほか、竹へら・菜箸・パスタフォークなど(カトラリー)、さまざまな食器もつくる。

第17期は、竹細工工房の実施日を平日に1日増やしたことで、参加者の分散化を図り、土曜日に多く発生していたキャンセル待ちをかなり解消できた。また、竹かご教室への新規参加希望者を竹細工工房の実施日にも柔軟に受け入れることで、教室の定期参加へと繋げることができた。さらに、運営メンバー同士で協議を重ねながら、竹細工工房のガイドラインを明文化できたことは、来期の活動に活かせるだろう。参加者数は、竹かご教室がのべ135名(昨期137名)とほぼ定員いっぱいを受け入れた一方、竹細工工房は実施日の増加が影響して、のべ264名(昨期160名)と1.7倍となり、合計の参加者数も399名(昨期297名)も大きく増加した。

【竹かご教室】

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/9 (土)	竹かご作り	9	2
8/13 (土)	竹かご作り	10	2
9/10 (土)	竹かご作り	8	2
10/8 (土)	竹かご作り	6	3
11/12 (土)	竹かご作り	10	3
12/10 (土)	竹かご作り	10	2
1/14 (土)	竹かご作り	8	3
2/11 (土)	竹かご作り	9	3
3/11 (土)	竹かご作り	10	3
4/8 (土)	竹かご作り	9	2
5/13 (土)	竹かご作り	8	2
6/10 (土)	竹かご作り	9	2

106

29

【竹細工工房】

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/21 (木)	竹ひご作り、風ぐるまワークショップ	8	3

7/23 (土)	竹ひご作り、カトラリー作り	12	4
8/18 (木)	竹ひご作り、かご編み	9	3
8/27 (土)	竹ひご作り、かご編み	10	2
9/15 (木)	かご加工	4	2
9/24 (土)	竹ひご作り、ざる編み、	10	3
10/20 (木)	竹ひご作り、かご編み	13	3
10/22 (土)	竹ひご作り、かご編み	6	1
11/17 (木)	竹ひご作り、かご編み	9	2
11/26 (土)	竹ひご作り、かご編み	9	2
12/15 (木)	竹かご作り、かご編み	6	2
12/24 (土)	ミニ門松づくり	11	4
1/19 (木)	竹ひご作り、かご編み	7	2
1/28 (土)	竹ひご作り、かご編み	10	3
2/16 (木)	竹ひご作り、かご編み	13	3
2/25 (土)	竹ひご作り、かご編み	8	3
3/16 (木)	竹かご作り、かご編み	8	2
3/25 (土)	竹ひご作り、かご編み	4	3
4/20 (木)	竹かご作り、かご編み	7	3
4/22 (土)	竹ひご作り、かご編み	13	4
5/18 (木)	竹かご作り、かご編み	7	2
5/27 (土)	竹ひご作り、かご編み	7	3
6/17 (木)	竹かご作り、かご編み	6	3
6/24 (土)	竹ひご作り、かご編み	13	3

202

62

(4) はまどまで土間仕事

第 17 期は食べ物のほかに、手仕事で開催することもあった。川口糍店を招き、大和ビル大会議室 d え手作り味噌と塩糍作りを楽しむイベントには、午前・午後 20 人ずつの参加者を集めた。来期には定員を 60 名に増やして開催したい。

しかし、全体としてはなかなか予定が作れず、開催回数が 4 回（昨期 10 回）と減少し、参加者数も 59 名（昨期 113 名）と半減した。来期は半期ごとに計画を作り、開催を定期化していく。

実施日	内 容	参加者	スタッフ
8/4 (木)	出汁の引き方と神奈川野菜のコラボ会	7	2
8/11 (木)	シルクで手縫いの枕カバーを作ろう	5	2
4/16 (日)	川口糍店さんと味噌作り	40	2
10/15 (木)	発酵祭り！ヤンニョム、塩麴を作ろう	7	1

59

7

(5) NORA サロン

第 17 期の開催はなかった。来期以降は、はまどまプロジェクトから独立して、場所をこだわらずに開催する。

(6) はまどま手習い塾

第 17 期も「季節の素材でスイーツメイキング」以外は集客に苦労した。また、「自然素材でコスメづくり」（北爪彩子さん）が都合により開催できなかった。来期は情報の提供先を増やすほか、外部から講師を招くなど工夫したい。

①季節の素材でスイーツメイキング（山本美香さん）

毎回、季節の素材と神奈川野菜に特化しメニューを考えているほか、使う野菜をボードに書いたり、野菜について話す機会を設けたり工夫している。今期は未就学児から小学校低学年の参加が多く、積極的に協力してくれる場面も増えた。親からは食育の場になって嬉しいという評価があるので、来期はそうした要素を意識したい。5 回（昨期 6 回）実施して参加者数は 56 名（61 名）だった。

実施日	内 容	参加者	スタッフ
8/23（火）	夏編（夏野菜ピザ、すいかのゼリー）	9	2
11/8（火）	秋編（さつま芋カボチャピザ、ぶどうのムース）	6	2
2/21（火）	冬編（ほうとう、プリン）	16	2
4/25（火）	春編（あさりづくし、キウイのタルト）	17	2
6/6（火）	春編（簡単大学芋、トマトチーズケーキ）	8	2
		56	10

②身近な素材で簡単おいしい薬膳ごはん（内倉和子さん）

参加者からの評価は高いが、参加者数が伸びない。「薬膳で神奈川野菜の食事会」として開催したが、改善を図れなかった。来期は薬膳に対する視点をさらに打ち出し、男性の参加も呼びかけたい。

実施日	内 容	参加者	スタッフ
7/31（日）	夏の薬膳（体内の熱を下げる）	7	2
9/4（日）	名残の夏の薬膳（気を養う薬膳）	9	3
11/13（日）	肺を潤すの薬膳（無駄な水分排出の薬膳）	4	2
5/7（日）	ストレスに良い薬膳（気の流れを良くする）	7	2
		27	9

③お香のてならい（粕谷恵さん）

都合により開催回数は少なかったが、興味を持つ人は潜在的に多いはずなので、積極的に広報したい。

実施日	内 容	参加者	スタッフ
8/14（日）	塗香	1	1
10/13（木）	塗香	1	1
		2	2

④川井緑地とのコラボ

「NORA の山仕事」以外の楽しみ方を通じて、積極的に川井緑地へ来てもらおうと始めた企画で、来期も秋以降に開催したい。

実施日	内 容	参加者	スタッフ
10/9 (日)	森の散策、スキんクリーム	2	1
1/29 (日)	クリームづくり、ピザづくり、ハンモック	5	4
		7	5

(7) はまどまシアター (共催：郷土映像ラボラトリー)

民族文化映像研究所に約 120 本ある記録映画の上映会で、2015 年 6 月末から再開した。中川美帆さんが主宰する「郷土映像ラボラトリー」との共催により、ほぼ月一回の定期上映が可能となった。依然として、上映日程、時間、宣伝方法など、集客に課題がある。

実施日	作 品	参加者	スタッフ
7/24 (日)	『竹の焼畑』『佐仁の八月踊り』	3	1
9/25 (日)	『武州藍』『日光山地の鹿狩りと狩猟文化』	10	1
10/23 (日)	『竹富島の種取祭』『イザイホー1990年』	10	1
11/27 (日)	『薩摩の紙漉』『茂庭のしなだ織』	5	1
12/25 (日)	『イヨマンテ』	13	1
2/26 (日)	『越後奥三面』	12	1
4/23 (日)	『佐渡の車田植』『大隅・薩摩の春まつり』	3	1
5/28 (日)	『アイヌの丸木舟』	3	1
6/25 (日)	『川越まつり』『薩摩の水からくり』	4	1
		63	9

(8) 地域連携・そのほか

- ・9/19 南太田小学校「おやじの会」流し素麺に竹を提供して協力。
- ・10/15 光のぷろむなあと・プレイベント蒔田公園にて
- ・10/16 フォーラム南太田まつりに「野菜市」で参加。
- ・10/30 ハロウィン町内会の企画に協力「はまどま」に子どもたち来訪。
- ・11/6 イセザキ町「エコでイセザキ」に「地モノ市」で参加
- ・12/10 (土) -11 (日) 大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなあと」に参加
(南太田小学校おやじの会、建設横浜と協力し、ワークショップ3種開催、紙芝居なども実施。
- ・3月 宮宿花地域カルタ第2弾「行事カルタ」完成。
- ・6/4 「蒔田公園ふれあいパークまつり」参加。「光のぷろむなあと」の予行演習と野菜スープ出店。
- ・「わいわい食堂」(こども食堂) 睦地域ケアプラザに農産物食材の提供を開始。
- ・勝野、三好が「光のぷろむなあと」でアーティストとして登録。

2) まいたエコサロンの会

地域の環境活動拠点として横浜市と構成団体が協働して運営に関わっているが、「はまどま」活用の優先順位が高く、第17期も会合に参加できず、ほとんど活動しなかった。

4. ハレ事業

1) 伊勢佐木町地モノ市

2016年11月6日(日)開催。前日12名、当日14名がスタッフ参加。ひさびさに天候に恵まれて開催できた。

2) 里山ガーデンの過去と未来～横浜動物の森公園を考える

第33回全国都市緑化よこはまフェアは、臨海部と郊外部の2会場で開催されたが、郊外部のゾーラシアに隣接する「里山ガーデン」は、横浜動物の森公園植物園の予定地となっている。今後どのような公園計画になるのか、私たちだったら、どんな公園になると嬉しいのかを考えるために、5月21日(日)、ひかりが丘小学校コミュニティハウスにて標記イベントを開催した。

午前の「里山ガーデンご案内(エクスカージョン)」には18名が参加、午後の「意見交換会」は17名が参加した(総勢23名)。この場所に30年ぶりに訪れた人や、何かのきっかけになった人、ご近所さん、最近よく訪れるようになった人、人・自然・公園の関係が気になる人など、いろんな立場やオモイがあった。共通していることは、「この場所がこれまでのプロセスを受けとめながら未来へステキな場所として引き継がれること」。描かれた「オモイの地図」は、まとめて横浜市にも送る予定。

里山の生物-文化の多様性保全に資する普及啓発、情報発信

5. イキモノ事業

1) 旬の里山探訪

NPO 法人新治里山「わ」を広げる会/新治里山公園運営プロジェクトが「にいほる里山交流センター」で実施しているイベントへ広報協力するかたちでおこなっている。実施主体は上記プロジェクトの自然観察/インタープリテーション部会。第17期は9回計画して全部開催でき、のべ176人(昨期8回167人)の参加者数となった。

実施日	内容	参加者	スタッフ
7/6(水)	樹木の観察	17	2
9/7(水)	秋の七草・新治バージョン	15	2
10/5(水)	里の実り	19	2
11/2(水)	尾根歩き	26	2
12/7(水)	冬芽観察	21	2
2/3(水)	野鳥観察	18	2
3/2(水)	春の七草はいま	22	2
4/5(水)	里の春を楽しもう	20	2
6/7(水)	初夏の尾根歩き	18	2

※5月は特別版のため除外、7-8月は休み。

176 18

2) トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

京浜臨海部において、生物多様性に配慮したみどりの質の向上を目的に、立地企業、市民活動団体、行政、専門家がそれぞれの立場で参加するフォーラムであり、NORAは2015年1月から参加している。第17期は、夏のトンボ調査等の活動に参加するほか、7月～10月にかけて指定管理者である公益財団法人横浜市緑の協会が本牧市民公園、富岡総合公園、長浜公園で主催する「トンボとり大作戦」の運営を担った。「トンボとり大作戦」への子どもの参加者数は次の通りであった。

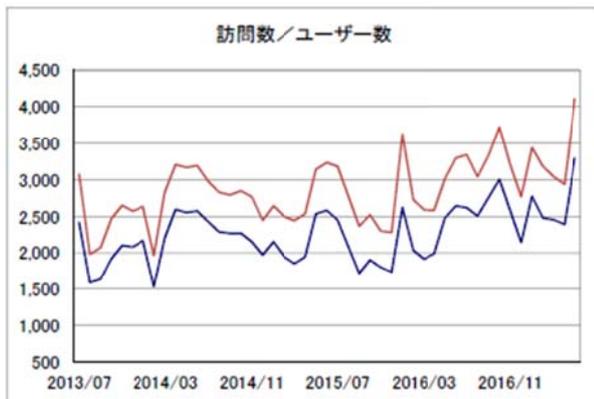
実施場所	7月	8月	9月	10月	
本牧市民公園	15	10	17	79	121
長浜公園	雨天中止	3	5	2	10
富岡総合公園	13	雨天中止	2	0	15
	28	13	24	81	146

6. 広報事業

1) ウェブサイトの更新

第17期も、各プロジェクトの告知、報告記事のアップなど情報発信を定期的におこなった。毎月、メルマガと連動するプロジェクトの告知記事、コラムの更新は順調であるが、報告記事の更新はプロジェクトによって偏りが大きい。

訪問数が月平均3,342（昨期2,770）と増加したものの、閲覧頁数は9,507（昨期9,118）とそれほど増えていない。5～6月の訪問者が急増したことから、全国都市緑化よこはまフェアの「里山ガーデン」による影響が強かったと思われる。滞在時間は2:02（昨期2:26）、直帰率は64.5%（60.5%）と悪化しており、情報発信力は高める必要がある。

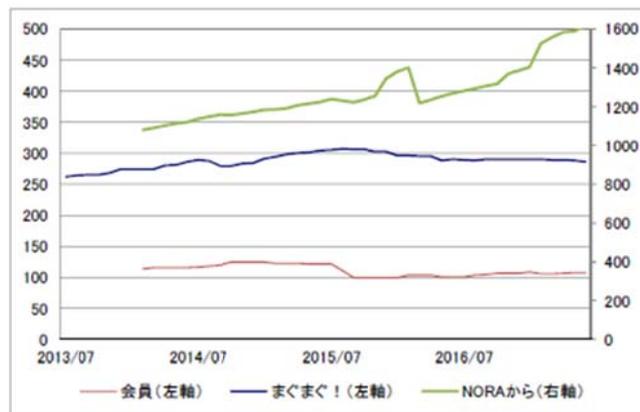
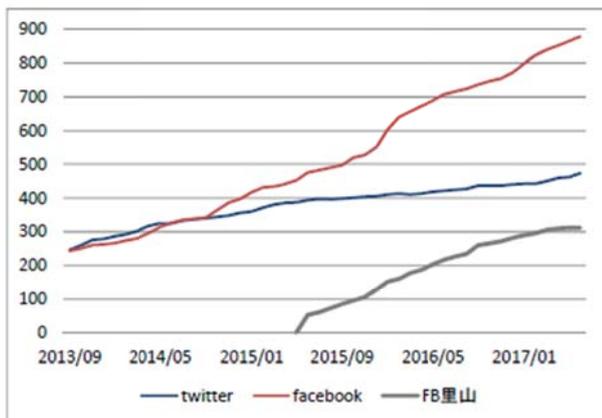


2) 「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」配信

「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」を毎月配信した（第98～109号）。メルマガは、会員（6月時点105、以下同様）には会員メーリングリスト経由で、事務局が把握している会友・関係者（1,637）には直接メールで配信している。また、メルマガ発行サービス「まぐまぐ！」でも配信しているが、読者数（284）は停滞・減少傾向にある。毎月、約2,000アドレスに情報を配信しており、日ごとのサイト訪問数はメルマガ配信後に毎回急増することから、依然として重要な広報媒体となっている。

3) ソーシャルメディアによる情報発信

twitter を利用して情報を発信しているが、ツイート数が非常に少なく、フォロワー（475→499）があまり増加してしなくなった。ウェブサイトの更新よりも facebook での情報発信に力点を置くようになっており、「いいね！」の数（707→878）は順調に増加した。facebook グループ「里山とかかわる暮らしを」では、それぞれのかかわり方を facebook に投稿・シェアして、里山とかかわる暮らしの普及を図っているが、メンバー数は（313→319）で頭打ちである。



4) 中間報告書の作成

2016 年末、簡易的な「2016 年活動報告」（A4 カラー版三つ折り）を作成し、会員・会友へ配布した。新規・継続事業の一年の動きを写真とともに簡潔な報告としてまとめ送付することで、年越し前の年会費振込みを促した。

協働・受託事業

里山に関する調査研究・コンサルティング・人材育成・講師派遣等

1) ビオトープ整備のアドバイザー派遣（横浜市環境創造局みどりアップ推進課）

＜実施期間：2016 年 5 月～2017 年 3 月、2017 年 5 月～2018 年 3 月＞

平成 28 年度は、ビオトープを整備したか、整備を検討した横浜市内の小学校（新規 7 校、継続 9 校）を訪問し、担当の教員等に対してビオトープ整備や維持管理方法、有効な活用方法等について指導した。平成 29 年度も引き続き、市内小学校等に対してビオトープ整備に関する指導を実施する。

2) 長浜公園トンボ池等管理業務委託（公益財団法人 横浜市緑の協会）

＜実施期間：2016 年 4 月～2017 年 3 月、2017 年 4 月～2018 年 3 月＞

平成 28 年度は、長浜公園のトンボ池等について市民を対象に環境啓発するとともに、生物の生息空間の保全・創造するためにトンボ池等の日常管理をおこない、老朽化にともなって漏水が懸念されるトンボ池の改善も実施した。

平成 29 年度に入り、4 月からはトンボ池や水田を適正な維持管理、啓発事業として田植え体験やヤゴ救出作戦の実施、「トンボとり大作戦」をとおした生き物調査などをおこなっている。

3) 野島公園ビオトープ水路環境調査委託（公益財団法人 横浜市緑の協会）

＜実施期間：2017 年 4 月～2018 年 3 月＞

野島公園（金沢区）に設置されるビオトープ池について、多様な生物が生息できる空間への改善に向

けた環境改善計画を提案するため、水環境、植物、水生生物調査を実施している。

4) 森を育む人材の育成会議運営委託（横浜市環境創造局みどりアップ推進課）

〈実施期間：2016年4月～2017年3月〉

「横浜みどりアップ計画（計画期間：平成 26-30 年度）」に基づき、市民と行政の協働による森づくりを安全かつ効果的に推進していくため、森づくりボランティアと市が共有すべきビジョンや役割分担、研修や支援の体系、安全対策等について課題や解決策を整理し、提言をおこなった。

5) 末広／生麦・新子安地区整備ワークショップ（末広／生麦・新子安地区緑のまちづくり協議会）

〈実施期間：2016年4月～2017年3月〉

地域緑のまちづくり事業の5年間の緑化活動を振り返り、事業終了後の活動と新たな地区整備イメージを考えるきっかけとするためのワークショップを企画、運営した。

6) Green Gift 地球元気プログラム（NPO 法人日本 NPO センター、東京海上日動火災保険株式会社）

〈実施期間：2016年10月～2017年9月〉

「Green Gift 地球元気プログラム」とは、東京海上日動火災(株)の「Green Gift」プロジェクトの一環として全国で展開されている環境保全活動のことで、神奈川県内の実施プログラムの企画調整を受託した。フィールドは、環境省「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定、神奈川県および相模原市の条例に基づく「里地里山保全等地域」にも選定されている小松・城北地区の里山で、地元の「小松・城北」里山をまもる会の協力を得て、一般社団法人まちやま、関東 EPO、神奈川県、相模原市などと連携して春と夏に2回実施した。

2回とも参加者アンケートの評価は高かった。来期は、地域づくりと環境教育を調整しながら、事業を組み立てることが課題となっている。

実施日	内容	参加者	スタッフ
3/25（土）	森の手入れ体験&タケノコご飯炊き！～親子で春の里山へ	32	14
6/24（土）	ジャガイモ掘り&ホテル観賞会～親子でアジサイの咲く里山へ	47	21
		79	35

7) 『里山ガイドブック』制作

原稿を引き取り、再構成・校正し直したいが、着手できなかった。

委員・講師派遣等

1) 委員

○吉武美保子

- ・神奈川県環境農政局公共事業評価委員会
- ・神奈川県自然環境保全審議会自然保護部会

○松村正治

- ・横浜市市民協働推進委員会
 - －市民活動運営支援事業部会
 - －市民協働条例に関する検討ワーキングメンバー
- ・林野庁補助事業「森林づくり活動団体への実態調査・分析」検討委員会

2) 講師・執筆

○吉武美保子

- ・市民活動支援センター『animato』2016年夏号 「緑を守り育む」執筆 <島村と共同>
- ・9/25 (日) あおば自然体験隊「横浜で小さな自然を育む・楽しむ暮らし」
- ・9/30 (金) IGES 国際生態学センター「都市の森を守り育てる動機付けと市民の役割」
- ・9/24・10/22・11/12 インタープリター養成講座コーディネーター (横浜市環境創造局)
- ・10/29 (土)・11/23 (祝) 森づくりボランティア養成講座 (横浜市環境創造局)
- ・10/30 (日) 東京都公園協会「保全管理計画と森づくりガイドライン～市民協働の現場から」
- ・2/4 (土) 「里地里山シンポジウム」コーディネーター (神奈川県)
- ・4/16 (日) 「横浜学～横浜とみどり」パネリスト (横浜ウォーカー・関東学院大学)
- ・6/12 (月) 産業能率大学「都市生活と里山の保全活用の取り組み」

○島村雅英

横浜市環境創造局出前講座「ビオトープで小さな生態系を感じてみよう」

実施日	内容	内容	学年	人数
7/15 (金)	幸ヶ谷小学校	ビオトープの作り方	4年	34
10/13 (木)	下野谷小学校	ビオトープとは	3年	58
10/27 (木)	美しが丘小学校	ビオトープについてもっと知ってもらおう	5年	71
6/27 (火)	小雀小学校	ビオトープの改善について	6年	29

192

○松村正治

- ・10/10 (月祝) 「みんなの協働フォーラム」(みんなの協働フォーラム・横浜市市民活動支援センター、横浜市) 分科会、全体会コーディネーター
- ・12/21 (水) 多摩の里山学「持続可能な里山とは？」(首都大学東京)
- ・2/4 (日) シンポジウム「森づくり活動の一步先をめざして」(森づくりフォーラム) コメント
- ・2/25 (土) 環境教育関東ミーティング「ビジネスモデルを考えよう！」話題提供
- ・『知っておきたいNPOのこと4(参加編)』(日本NPOセンター) 刊行

○石田周一

- ・『JA広報通信』2017年1月号～毎月「里山とかかわる暮らし」執筆 <吉武と共同>

3) そのほか

[取材・広報など]

- ・7/16-31の間に13日間、東京環境工科専門学校から2名のインターンシップ受入。
『環境ボランティア・なび2017』(関東EPO) にボランティア募集記事を掲載。
- ・6/8 (木) 国土緑化推進機構から「緑の募金」関係で取材。

活動計算書

[税込](単位:円)

特定非営利活動法人よこはま里山研究所

自 2016年 7月 1日 至 2017年 6月30日

【経常収益】			
【受取会費】			
運営会員受取会費	144,000		
一般会員受取会費	132,000		
賛助会員受取会費	40,000	316,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金		2,555,789	
【受取助成金等】			
受取助成金		2,551,400	
【事業収益】			
自主事業収入	1,466,395		
販売事業収入	410,659		
受託事業収入	5,323,624	7,200,678	
【その他収益】			
受取利息	35		
雑収入	169,720	169,755	
経常収益計			12,793,622
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
人件費計	0		
(その他経費)			
業務委託費(事業)	4,928,607		
諸謝金(事業)	1,674,114		
印刷製本費(事業)	21,312		
会議費(事業)	70,154		
旅費交通費(事業)	123,230		
通信運搬費(事業)	6,994		
消耗品費(事業)	1,298,001		
器具備品費(事業)	344,200		
賃借料(事業)	234,796		
減価償却費(事業)	55,319		
保険料(事業)	97,602		
調査研究費(事業)	5,504		
支払手数料(事業)	10,628		
販売仕入(事業)	329,844		
雑費(事業)	5,643		
その他経費計	9,205,948		
事業費計		9,205,948	
【管理費】			
(人件費)			
人件費計	0		
(その他経費)			
業務委託費	100,000		
通信運搬費	95,162		
消耗品費	34,940		
水道光熱費	116,923		
地代家賃	972,700		
接待交際費	16,200		
諸会費	21,900		
租税公課	1,200		
その他補助	(1,200)		
支払手数料	29,070		
雑費	517		
その他経費計	1,388,612		
管理費計		1,388,612	
経常費用計			10,594,560
当期経常増減額			2,199,062
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			2,199,062
法人税、住民税及び事業税			74,500
当期正味財産増減額			2,124,562
前期繰越正味財産額			8,288,334
次期繰越正味財産額			10,412,896

貸借対照表

特定非営利活動法人よこはま里山研究所
全事業所

[税込] (単位: 円)
2017年 6月30日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	661,057
小口現金	32,808	預り金	4,080
普通預金	9,794,249	仮受金	50,000
現金・預金計	9,827,057	納税充当金	74,500
(売上債権)		流動負債計	789,637
未収金	550,000	負債合計	789,637
売上債権計	550,000	正 味 財 産 の 部	
(その他流動資産)		【正味財産】	
前払費用	81,000	前期繰越正味財産額	2,124,562
その他流動資産計	81,000	当期正味財産増減額	8,288,334
流動資産合計	10,458,057	正味財産計	10,412,896
【固定資産】		正味財産合計	10,412,896
(有形固定資産)			
機械及び装置	428,896		
有形固定資産計	428,896		
(無形固定資産)			
電話加入権	89,880		
無形固定資産計	89,880		
(投資その他の資産)			
敷金	225,700		
投資その他の資産計	225,700		
固定資産合計	744,476		
資産合計	11,202,533	負債及び正味財産合計	11,202,533

財 産 目 録

特定非営利活動法人よこはま里山研究所
全事業所

[税込] (単位: 円)
2017年 6月30日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
小口 現金	32,808		
小口現金 (吉武)	(2,826)		
小口現金 (島村)	(25,482)		
小口現金 (鈴木)	(4,500)		
普通 預金	9,794,249		
横浜銀行本郷台支店 (本部)	(5,593,435)		
横浜銀行上大岡支店 (吉武)	(554,834)		
横浜銀行阪東橋支店 (ヤマ)	(325,429)		
横浜銀行阪東橋支店 (島村)	(1,236,798)		
ゆうちょ銀行宿町 (どま)	(428,447)		
ゆうちょ銀行振替	(1,655,306)		
現金・預金 計	9,827,057		
(売上債権)			
未 収 金	550,000		
売上債権 計	550,000		
(その他流動資産)			
前払 費用	81,000		
その他流動資産 計	81,000		
流動資産合計		10,458,057	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
機械及び装置	428,896		
有形固定資産 計	428,896		
(無形固定資産)			
電話加入権	89,880		
無形固定資産 計	89,880		
(投資その他の資産)			
敷 金	225,700		
投資その他の資産 計	225,700		
固定資産合計		744,476	
資産の部 合計		11,202,533	
《負債の部》			
【流動負債】			
未 払 金	661,057		
預 り 金	4,080		
源泉預り金 (謝礼金)	(4,080)		
仮 受 金	50,000		
納税充当金	74,500		
流動負債 計	789,637		
負債の部 合計		789,637	
正味財産		10,412,896	

第17期(2016.7.1-2017.6.30.予算実績表

勘定科目名称	予算	実績	差額 (実績-予算)
《経常増減の部》			
【経常収益】			
【受取会費】			
運営会員受取会費	180,000	144,000	△ 36,000
一般会員受取会費	150,000	132,000	△ 18,000
賛助会員受取会費	50,000	40,000	△ 10,000
受取会費 計	380,000	316,000	△ 64,000
【受取寄付金】			
受取寄付金	2,000,000	2,555,789	555,789
受取寄付金 計	2,000,000	2,555,789	555,789
【受取助成金等】			
受取助成金	2,240,000	2,551,400	311,400
受取助成金等 計	2,240,000	2,551,400	311,400
【事業収益】			
自主事業収益	2,400,000	1,466,395	△ 933,605
販売事業収益	180,000	410,659	230,659
受託事業収益	2,150,000	5,323,624	3,173,624
事業収益 計	4,730,000	7,200,678	2,470,678
【その他収益】			
受取 利息	0	35	35
雑 収 益	80,000	169,720	89,720
その他収益 計	80,000	169,755	89,755
経常収益 計	9,430,000	12,793,622	3,363,622
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
人件費計	0	0	0
(その他経費)			
業務委託費(事業)	2,800,000	4,928,607	2,128,607
諸 謝 金(事業)	1,800,000	1,674,114	△ 125,886
印刷製本費(事業)	30,000	21,312	△ 8,688
会 議 費(事業)	15,000	70,154	55,154
旅費交通費(事業)	100,000	123,230	23,230
通信運搬費(事業)	20,000	6,994	△ 13,006
消耗品 費(事業)	1,100,000	1,298,001	198,001
器具備品費(事業)	250,000	344,200	94,200
修 繕 費(事業)	40,000	0	△ 40,000
賃 借 料(事業)	40,000	234,796	194,796
減価償却費(事業)	48,457	55,319	6,862
保 険 料(事業)	145,000	97,602	△ 47,398
諸 会 費(事業)	0	0	0
調査研究費(事業)	40,000	5,504	△ 34,496
支払手数料(事業)	10,000	10,628	628
広告宣伝費(事業)	10,000	0	△ 10,000
事業仕入(事業)	0	0	0
販売仕入(事業)	150,000	329,844	179,844
雑 費(事業)	30,000	5,643	△ 24,357
その他経費計	6,628,457	9,205,948	2,577,491
事業費 計	6,628,457	9,205,948	2,577,491
【管理費】			
(人件費)			
人件費計	0	0	0
(その他経費)			
印刷製本費	0	0	0
業務委託費	0	100,000	100,000
通信運搬費	120,000	95,162	△ 24,838
消耗品 費	40,000	34,940	△ 5,060
水道光熱費	140,000	116,923	△ 23,077
地代 家賃	972,000	972,700	700
保険料	0	0	0
諸 会 費	20,000	21,900	1,900
調査研究費	0	0	0
慶 弔 費	0	0	0
租税 公課	5,000	1,200	△ 3,800
支払手数料	65,000	29,070	△ 35,930
支払寄付金	0	0	0
交際費	10,000	16,200	6,200
雑 費	5,000	517	△ 4,483
その他経費計	1,377,000	1,388,612	11,612
管理費 計	1,377,000	1,388,612	11,612
経常費用 計	8,005,457	10,594,560	2,589,103
当期経常増減額	1,424,543	2,199,062	774,519
《経常外増減の部》			
【経常外収益】			
経常外収益 計	0	0	0
【経常外費用】			
経常外費用 計	0	0	0
《正味財産増減の部》			
税引前当期正味財産	1,424,543	2,199,062	774,519
法人税、住民税及び	74,500	74,500	0
当期正味財産増減額	1,350,043	2,124,562	774,519

第17期(2016.7.1-2017.6.30)部門別集計表

	全事業所	事務局	広報	ヤマ(合計)	ヤマ(自主)	ヤマ(販売)	ヤマ(林野庁)	ムラ	受託
《経常増減の部》									
【経常収益】									
【受取会費】									
運営会員受取会費	144,000	144,000	0	0	0	0	0	0	0
一般会員受取会費	132,000	132,000	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員受取会費	40,000	40,000	0	0	0	0	0	0	0
受取会費計	316,000	316,000	0	0	0	0	0	0	0
【受取寄付金】									
受取寄付金	2,555,789	444,027	0	1,679,914	1,679,914	0	0	431,848	0
受取寄付金計	2,555,789	444,027	0	1,679,914	1,679,914	0	0	431,848	0
【受取助成金等】									
受取助成金	2,551,400	0	0	2,551,400	1,735,400	0	816,000	0	0
受取助成金等計	2,551,400	0	0	2,551,400	1,735,400	0	816,000	0	0
【事業収益】									
自主事業収益	1,466,395	0	0	59,795	59,795	0	0	1,406,600	0
販売事業収益	410,659	0	0	410,659	0	410,659	0	0	0
受託事業収益	5,323,624	0	0	993,600	993,600	0	0	0	4,330,024
事業収益計	7,200,678	0	0	1,464,054	1,053,395	410,659	0	1,406,600	4,330,024
【その他収益】									
受取利息	35	23	0	2	2	0	0	1	9
雑収益	169,720	20	0	0	0	0	0	0	169,700
その他収益計	169,755	43	0	2	2	0	0	1	169,709
経常収益計	12,793,622	760,070	0	5,695,370	4,468,711	410,659	816,000	1,838,449	4,499,733
【経常費用】									
【事業費】									
(人件費)									
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(その他経費)									
業務委託費(事業)	4,928,607	0	0	1,813,343	1,813,343	0	0	0	3,115,264
諸謝金(事業)	1,674,114	0	0	1,304,466	480,466	0	824,000	0	369,648
印刷製本費(事業)	21,312	0	0	9,936	9,936	0	0	0	11,376
会議費(事業)	70,154	0	0	70,154	70,154	0	0	0	0
旅費交通費(事業)	123,230	0	0	123,230	123,230	0	0	0	0
通信運搬費(事業)	6,994	0	6,994	0	0	0	0	0	0
消耗品費(事業)	1,298,001	0	0	375,464	375,464	0	0	910,300	12,237
器具備品費(事業)	344,200	0	0	344,200	344,200	0	0	0	0
修繕費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賃借料(事業)	234,796	0	0	0	0	0	0	0	234,796
減価償却費(事業)	55,319	0	0	55,319	55,319	0	0	0	0
保険料(事業)	97,602	0	0	60,602	60,602	0	0	0	37,000
諸会費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調査研究費(事業)	5,504	0	0	0	0	0	0	0	5,504
支払手数料(事業)	10,628	0	324	7,064	7,064	0	0	0	3,240
広告宣伝費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業仕入(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
販売仕入(事業)	329,844	0	0	329,844	0	329,844	0	0	0
雑費(事業)	5,643	0	0	5,643	0	0	5,643	0	0
その他経費計	9,205,948	0	7,318	4,499,265	3,339,778	329,844	829,643	910,300	3,789,065
事業費計	9,205,948	0	7,318	4,499,265	3,339,778	329,844	829,643	910,300	3,789,065
【管理費】									
(人件費)									
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(その他経費)									
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業務委託費	100,000	100,000	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	95,162	3,534	0	0	0	0	0	26,572	65,056
消耗品費	34,940	34,940	0	0	0	0	0	0	0
水道光熱費	116,923	0	0	0	0	0	0	33,908	83,015
地代家賃	972,700	0	0	0	0	0	0	282,083	690,617
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸会費	21,900	21,900	0	0	0	0	0	0	0
調査研究費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
慶弔費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	1,200	1,200	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	29,070	29,070	0	0	0	0	0	0	0
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交際費	16,200	16,200	0	0	0	0	0	0	0
雑費	517	517	0	0	0	0	0	0	0
その他経費計	1,388,612	207,361	0	0	0	0	0	342,563	838,688
管理費計	1,388,612	207,361	0	0	0	0	0	342,563	838,688
経常費用計	10,594,560	207,361	7,318	4,499,265	3,339,778	329,844	829,643	1,252,863	4,627,753
当期経常増減額	2,199,062	552,709	-7,318	1,196,105	1,128,933	80,815	-13,643	585,586	-128,020
《経常外増減の部》									
【経常外収益】									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【経常外費用】									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
《正味財産増減の部》									
税引前当期正味財産増減額	2,199,062	552,709	-7,318	1,196,105	1,128,933	80,815	-13,643	585,586	-128,020
法人税、住民税及び事業税	74,500	74,500	0	0	0	0	0	0	0
当期正味財産増減額	2,124,562	478,209	-7,318	1,196,105	1,128,933	80,815	-13,643	585,586	-128,020
前期繰越正味財産額	8,288,334								
次期繰越正味財産額	10,412,896								

監査報告書

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
理事長 松村正治 殿

第17期事業年度（2016年7月1日から2017年6月30日まで）の事業報告、活動計算書、貸借対照表、財産目録を監査した結果、法令や定款に則して適切に処理、記載されていることを認める。

以 上

2017年 8月 17日

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所

監事

平石真司 

第3号議案 第18期事業計画（2017年7月～2018年6月）

第18期は、「里山とかかわる暮らし」を実践・提案し、里山文化に親しむ仲間の輪を広げながら、里山の資源・空間をいかしたシゴトづくりにも努める。そして、そのプロセスを情報発信しながら、社会-里山の持続可能な関係を支える仕組みづくりを図る。

「はまどま」プロジェクトについては変革が必要であるが、2008年改革の効果も薄れてきたところなので、中長期計画を検討し、事業全体における位置づけを見直すことにする。NORAがターゲットとする地域を多摩・三浦丘陵群を想定し、「はまどま」は横浜南部エリアの拠点と位置づけ直す。あわせて、横浜北部エリアと多摩エリアにも拠点を定め、活動を展開しつつ、情報発信、コミュニティづくりを進めていく。そのうえで、「はまどま」プロジェクトについて、あらためて中期計画・広報戦略を立て、運営体制の変更や連携先の開拓、さらに施設的な改修も含めて改革に着手し、コミュニティづくりをすすめる、収益性の向上に努める。

このほかの自主事業の定例活動については、新たな人材が活躍する場を設けながら、着実に実施していく。また、ここ数年安定した収入を得ていた林野庁からの補助金は昨期中に切れ、神奈川県からの交付金は今期中に終わるので、自立的に活動を継続できるように工夫する。

資金調達については、よこはま夢ファンドを通して寄附金を積極的に集めたい。戦略を練ったうえで、具体的に人・団体等にアプローチする計画を立てるとともに、寄附金の活用方法についても検討する。

運営に関わる中心的なメンバーが固定化しているので、この課題の解決に向けた行動が必要である。複数の拠点づくりを進め、さまざまな人・団体が、さまざまなやり方で参加できる場を設けて、新たな風を招き入れたい。その際に、「選択と集中」に頼らず、里山をモデルとして多様性と持続性を大事にしながら活動を展開することで、「里山とかかわる暮らし」と「里山をいかすシゴトづくり」を拡げていきたい。

自主事業

1. ヤマ事業

- 1) NORAの山仕事 {別紙計画書のとおり}
- 2) よこはま里山レンジャーズ {別紙計画書のとおり}
- 3) 竹を活かす山仕事 {別紙計画書のとおり}
- 4) 山道具の安全使用

安全に緑地保全活動をおこなうために適切なチェーンソー等の機材使用をすすめる。

- 5) まちの近くで里山をいかすシゴトづくり {別紙計画書のとおり}

2. ノラ事業

- 1) 森と畑と音楽と {別紙計画書のとおり}

3. ムラ事業

- 1) はまどまプロジェクト

- (1) NORA野菜市

毎週火曜日 17～19時、大和ビル駐車場で野菜市を開き、身近に交流できる生産者の農産物を日々の暮らしに活かす機会を創出する。新たに土曜日 12～13時にも、「はまどま」前で野菜市を開催する。

- (2) 神奈川野菜の食事会 {別紙計画書のとおり}

生産者の心とともに季節を味わう～神奈川野菜の食事会/NORA ちゃぶ

- (3) もったいないから竹細工 {別紙計画書のとおり}
- (4) はまどまで土間仕事 {別紙計画書のとおり}
- (5) はまどま手習い塾 {別紙計画書のとおり}

季節の素材でスイーツメイキング／身近な素材で簡単おいしい薬膳ごはん／お香のてならい
(6) はまどまシアター {別紙計画書のとおり}

2) まいたエコサロンの会

まいたエコサロンの会の一員として、適宜、ネットワーク活動に協力する。

3) NORA サロン

シゴトづくりと連動させるなどして、大事にすべき価値を確かめながら、学ぶ機会を提供する。

4. ハレ事業

1) 伊勢佐木町地モノ市

2017年秋、伊勢佐木町商店街のエコイベントに参加するかたちで「地モノ市」を開催する。

5. イキモノ事業

1) 旬の里山探訪 {別紙計画書のとおり}

2) トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

フォーラムの一員として、森里川海との連携を図り、生物多様性の保全に繋がる活動をおこなう。

6. 広報事業

1) ウェブサイトの更新

twitter・facebook との連携を進めるほか、ブログ記事・情報の更新頻度を上げ、より効果のある広報媒体を目指す。記事の掲載については、一部の会員に負担が集中しないよう役割分担を進める。

2) 「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」配信

ウェブサイトと連携しながら、月に1回以上定期的に配信して、効果的に情報を発信する。

3) ソーシャルメディアによる情報発信

twitter・facebook を利用して、柔軟に迅速に情報を発信する。

協働・受託事業

1) 長浜公園トンボ池管理等業務 {別紙計画書のとおり}

2) 横浜市保育所・小中学校等ビオトープ整備等指導業務 {別紙計画書のとおり}

3) 野島公園ビオトープ池の環境改善提案に向けた生物調査 {別紙計画書のとおり}

このほか、適宜、社会のニーズに応じて協働・受託事業を進める。

ボランティア体験、インターンシップの受入は、可能な限り引き受ける。

委員・講師派遣

行政・NPO・大学等からの求めに応じて、里山保全や市民活動等に関する委員・講師を派遣する。

『JA広報通信』にコラム「里山とかかわる暮らし」を執筆する。

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	NORA の山仕事		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	下山康博		
スタッフ(リーダーを除く)	中林博志、大嶋邦佳		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用する森」をコンセプトにして、手入れによって豊かな森をつくる ・森の恵みを様々なかたちで利用して、森とかかわる暮らしを横浜で実践する 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業デッキを完成させる ・林内に蓄積してしまった廃材の処理を促進させる ・遊歩道を新設する ・参加者が快適に森で作業できる環境を整える 		
内容	常緑樹の除伐や下草刈、落葉樹苗の育苗から定植など、豊かな森づくりを目標に作業を行っている。除伐した材を有効活用するために、丸太を製材しスツールなどの木工品を製作したり、薪などにも利用している。		
日時 (毎月)	定例:第 2・第 4 日曜日 やま守り編:第 1・第 3 土曜日 実施時間 10:00～16:00		
場所	旭区下川井町 特別緑地保全地区		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	10:00 川井緑地に集合 ミーティングを行い作業内容、使用する道具を確認 10:30 現場にて作業開始 12:00 昼食 13:00 作業開始 15:00 作業終了 道具の整備、活動の振り返りと予定を確認 16:00 解散		
一般募集の有無	有:人数未定(NORAメルマガ・HPなどの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	有:グリーンボランティア保険加入料として @500 円		
収入見込額 (項目ごとに金額を記すほ か、合計も記入)	参加費・寄付金収入	40,000 円	
	作業支援収入	50,000 円	
	資材販売収入	10,000 円	
	繰越金	176,000 円	
	合計	276,000 円	
支出見込額 (項目ごとに金額を記すほ か、合計も記入)	グリーンボランティア保険	60,000 円	(@3,000 円×20 回程度)
	委託費	120,000 円	(1 万円×12 か月)
	資機材購入費	51,000 円	(ソーチェーンなど)
	消耗品費	45,000 円	(燃料・工具修理等)
	合計	276,000 円	
備考(他団体との連携等 を適当に記入)			
作成年月日	2017 年 8 月 8 日	作成者名	下山康博

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	よこはま里山レンジャーズ (国土緑化機構「緑の募金」)		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	島村雅英		
スタッフ (リーダーを除く)	よこはま里山レンジャーズプロジェクトメンバー(松村、下山、吉武、中林)		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山保全活動に新たなメンバーが加わり、環境活動団体の活性化を支援が図られる。 ・ 里山保全活動に参加する人たちの安全意識が向上する。 		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ レンジャーズを延べ 10 回、里山等保全活動に派遣する。 ・ 安全技術研修を 5 回開催する。 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所や指定管理者などからの活動資金提供を模索しながら、自然環境復元協会と連携して、レンジャーズ派遣を行う。 ・ 作業内容は、基本的に下草刈り、間伐材の搬出、簡単な枝打ち、落ち葉かきなど軽作業を基本とし、チェーンソーによる伐採等危険が伴う作業は行わない。 ・ 里山保全ボランティアの安全技能研修を開催する。 		
日時	<ul style="list-style-type: none"> ・ レンジャーズ派遣: 月 1 回程度 ・ 里山保全ボランティアの安全技能研修: 11/25,26、12 月、1 月、5 月 		
場所	ボランティアサイト: 恩田の谷戸、桜ヶ丘緑地、川井緑地、瀬上市民の森、 有償サイト: 新治の谷戸田、長浜公園、元町公園プール 里山保全ボランティアの安全技能研修: 川井緑地		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)	レンジャーズ派遣: 3 月、活動計画づくり、4 月～3 月レンジャー派遣 里山保全ボランティアの安全技能研修 11 月 25 日 第 1 回 里山保全基本研修 11 月 25 日、26 日 第 2 回 作業グループリーダー安全管理研修 12 月: 第 3 回 手道具による伐木研修 1 月: 第 4 回 動力機械を使った草刈り、伐木研修 5 月: 第 5 回 里山材の活用実践		
一般募集の有無	レンジャー登録会員対象、1 回あたり 10～20 人 レンジャー登録は一般募集有、メルマガ・HP、自然環境復元協会からの呼びかけ		
参加費の有無	レンジャーズは無料、研修は 1000 円/回		
収入見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	安全技能研修 370,000 円 (国土緑化助成金 310,000 円 参加費 60,000 円) 有償サイトからの資金調達: 30,000 円 合計 400,000 円		
支出見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	協力金 20,000 円 自然環境復元協会 有償箇所 @10,000×2 回 安全技能研修事業費 340,000 円 保険@5,000×4 回=20,000 円 チラシデザイン・印刷=30,000 円 講師経費 190,000 円(謝金、交通費、宿泊費等、3 回分) 事務経費 100,000 円 管理費 40,000 円 合計 400,000 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)	レンジャーズ名簿管理: 自然環境復元協会 受入れ団体: 恩田の谷戸ファンクラブ、瀬上市民の森愛護会、にいほる「わ」を広げる会、桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト、横浜市緑の協会、横浜にとんぼを育てる会		
作成年月日	2017 年 8 月 4 日	作成者名	島村雅英

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	竹を活かす山仕事 (平成 29 年度神奈川県水源環境保全・再生市民事業支援補助金)		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	下山康博		
スタッフ	宮原正樹		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畑や水源林である山々を侵食する竹林の手入れを行なう ・ 竹林整備を行なうことで、恵ある里山の生態系を維持する ・ 整備活動によって排出された竹材を有効活用する 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業への継続的な参加者を募ると共に、運営を担えるスタッフを募る ・ 民有地・町有地の竹林整備を継続する ・ 良質な材を生産できる竹林を目標とし、整備を行う 		
内容	南足柄郡中井町にある竹林において、竹の間伐作業を行う。 切り出した竹は、竹ひご作りの練習用に用いたり、カトラリーを製作する材料として活用する。 ※8 月～9 月の間は、伐り出し作業は無し		
日時	毎月第 3 日曜日 10:00～15:00		
場所	南足柄郡中井町		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	9:00 京浜急行 上大岡駅集合(10:00 ミニストップ下曾我店) 10:30 現地到着 作業開始 12:00 昼休み 13:00 作業再開 14:00 作業終了 材の積み込み 15:00 現地解散		
一般募集の有無	有：人数未定 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	有：@500 円		
収入見込額 (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	会費・参加費		40,200 円
	市民事業補助金		159,000 円
	計		199,200 円
支出見込額 (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	物品費		72,500 円
	旅費交通費		21,000 円
	保険料		6,000 円
	報償謝礼費		100,000 円
	事務費		11,000 円
	計		199,200 円
備考(他団体との連携 等を適当に記入)			
作成年月日	平成 29 年 6 月 30 日	作成者名	下山康博

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	まちの近くで里山をいかすシゴトづくりプロジェクト		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	松村正治		
スタッフ (リーダーを除く)	島村雅英、富永一夫、吉武美保子、石田周一		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・里山シゴトづくりに関する人や団体等のネットワークをつくる。 ・里山をいかすビジネスモデルと経済倫理を考える。 ・里山をいかすシゴトづくりのための仕組みづくりと環境整備をおこなう。 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関心のあるメンバー100人のネットワークを構築する。 ・ビジネスモデルを考えるワークショップと、経済倫理を考える研究会を2回ずつ開催する。 ・「里山をいかすシゴトづくり」「里山とかかわる暮らし」に関する情報サイトを立ち上げる。 		
内容	3年間のプロジェクトの2年目として活動を進め、里山でシゴトする若手実践家、社会的起業家をサポートしつつ、その社会実験の経過を発信しながら、必要な資金を調達するための仕組みをつくる。		
日時			
場所			
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	9月～12月:現代的な里山の保全と活用をテーマとしたワークショップの開催(2回) 9月～12月:持続可能な里山保全の仕組みづくりをテーマにした研究会の開催(2回) 12月:里山保全の安全管理のルールづくりをテーマにしたシンポジウムの開催 1月:現代的な里山の保全と活用をテーマとしたフォーラムの開催 報告書の作成		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額((項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	寄附金	745千円	@500円×100名
	自主事業収入	50千円	
	計	(795千円)	
支出見込額((項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	人件費	100千円	チラシ・ウェブデザイン等
	謝金	300千円	
	業務委託費	200千円	
	旅費交通費	65千円	
	印刷費	120千円	
	会議費	10千円	
	計	(795千円)	
備考(他団体との連携 等を適当に記入)	株式会社かんぼ生命保険		
作成年月日	2017年8月18日	作成者名	松村正治

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	森と畑と音楽と		
カテゴリー	ノラ		
リーダー	中川 櫛		
スタッフ(リーダーを除く)			
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休耕農地を利用することで地域環境や農地を維持する ・ 参加者が一連の農作業を体験することで、野菜を育て収穫する喜びを体感する ・ 山仕事で出てくる木材の保管および製材・加工場所として活用する ・ 常時作付けが可能なように土地を管理する 		
目標(今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備運営に携わるスタッフの確保 ・ 事業への協賛者を増やす ・ 水田の効率的な利用方法を検討 ・ 伐採樹木の適切な利用方法を検討 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地管理(草刈り・草取り・耕耘) ・ 野菜の育成(作付け・施肥・防虫管理・収穫) ・ 収穫体験の実施 ・ 活動場所で採れた野菜を使った料理 ・ 林産物や伐採樹木の活用 ・ 子ども向け環境教育の実施 ・ 音楽会の実施 ・ クラフト全般(おもに木工。電動工具も使用可能) 		
日時(毎月)	基本的に毎週末(日曜または土日両日) 10:00～17:00 (不定期:要連絡)		
場所	厚木市七沢		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)	<p>7月 収穫作業 草刈り 種まき</p> <p>8月 夏野菜収穫 草刈り 畝作り 種まき・苗植え付け 水田草取り</p> <p>9月 草取り 苗植え付け 種まき</p> <p>10月 草刈り草取り 収穫作業 稲刈り</p> <p><u>11月中旬 収穫祭・音楽会</u></p> <p>11～2月 収穫作業 伐採したサクラ・ケヤキ・ナギ・スギ等の利用</p> <p>2～3月 耕耘・クラフト</p> <p><u>3月 子ども自然体験プログラム(川遊び・昼食作り)</u></p> <p>4月 種まき 中旬～下旬 草刈り 耕運 施肥</p> <p>5月 苗植え付け 種まき 草刈り・畝作り 水田のための用水路清掃</p> <p><u>5月初旬 年度初めのお披露目会(BBQ)</u></p> <p>4～6月 種まき 苗植え(サツマイモ) 草刈り</p> <p>6月 田植え(田植え体験)</p>		
一般募集の有無	有:人数未定(NORAメルマガ・HPなどの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	有:参加プログラムによる		
収入見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	<p>年会費@5,000×6人 30,000円</p> <p>参加費@1,000×50人・回 50,000円</p> <p>計 80,000円</p>		
支出見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	<p>種苗購入費 20,000円 肥料購入費 5,000円 資材購入費 10,000円</p> <p>電気代・借地料(地主へのお礼) 10,000円 燃料代(ガソリン・オイル等) 10,000円</p> <p>農業機械、トラック(クレーン)使用のお礼代 20,000円 その他雑費 5,000円</p> <p>計 80,000円</p>		
備考(他団体と連携等)			
作成年月日	2017年8月9日	作成者名	中川 櫛

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	生産者の心とともに季節を味わう～神奈川野菜の食事会		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊		
スタッフ (リーダーを除く)	随時募集		
目的 (箇条書きで記入)	生産者との関わりを明らかにしながら、農業・食べ物の学習・情報交換をはかる場にする。野菜市利用者や、地域の人々への参加呼びかけを強める。「はまどま」への人々のいざない(誘い)→里山への誘い。		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)			
内容			
日時			
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)			
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	参加費収入:1,000×10×10=100,000 円 参加費 1,000 円(大人) 参加人数は平均 10 名目標 年間開催回数 10 回		
支出見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	はまどま協力費:参加人数 10 名×500 円×10 回=50,000 円 材料費等 50,000 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)			
作成年月日	2017 年 8 月 9 日	作成者名	三好豊

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	NORA ちゃぶ		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	勝野真美		
スタッフ (リーダーを除く)			
目的 (箇条書きで記入)	火曜日の野菜市の際に、野菜を買いに来た人、夜空いているからご飯を誰かと食べたい人、何か話をしたい人、旬の野菜をただ食べたい人が、その身とお酒と何か話題を 1 つ持って集まる		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	月に1度でもいい。気軽に集まってごはんを囲む。それが美味しい神奈川野菜で、見知った顔、初めての顔…集まった人みんながスピーカーになって、次は聴いて。料理も私が作るだけでなく、みんなで作りあう。心の通うごはんを作る、食べる…そんな土間を「はまどま」で作っていく。		
内容	旬の神奈川お野菜を心ゆくまで食べる。心ゆくまで話す。ゆんたくの時間をつくる。		
日時	月1回、スタッフ都合のよい火曜を予定。		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	月1回、スタッフ都合のよい火曜を予定。		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額 (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	2,000×10=20,000 円/回 高校生以上 2,000 円(会員 1,800 円) 小学生 500 円 中学生 1,000 円 人数は 10 名設定。(会員：一般=5：5)		
支出見込額 (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	はまどま協力金:500×5=2,500 円 食材費:3,000 円 人件費・管理費:17,500 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)			
作成年月日	2017 年 8 月 10 日(木)	作成者名	勝野真美

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	もったいないから竹細工 (平成 29 年度神奈川県水源環境保全・再生市民事業支援補助金)		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	下山康博		
スタッフ(リーダーを除く)	講師:山口和美 アシスタント:松坂義之		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹林整備で排出された竹材を有効活用する ・ 竹材から竹ひごを製作し、竹籠などの竹細工を作る ・ 竹細工の技術を身近に感じてもらい、ものづくりの楽しさを体験する 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規を含めた参加者の継続的な関わりを推奨する ・ 参加者のスキルアップ(材料の製作から運営を意識できるメンバーの育成を含む) ・ 参加者を増やす事で、助成金終了後の安定的な事業の実施を図る 		
内容	毎月第二土曜日に、竹かご教室を実施する。 7 作品(全 12 回)にて一区切りをつけ、修了後は工房作業への参加を促す 第三木曜・第四土曜日に、竹ひご作りの練習や竹かご製作、カトラリー作り等 WS を行う		
日時	毎月第二土曜日(竹かご教室) 第三木曜・第四土曜日(工房作業) 13:00～16:00		
場所	はまどま		
年間スケジュール			
一般募集の有無	有:定員 10～12 名 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	有:@1,000～2,500 円		
収入見込額 (項目ごとに金額を記すほ か、合計も記入)	参加費 竹かご教室(@2,000 円×10 名×12 回) 竹工房 (@2,000 円×18 名×12 回) ※土曜日 10 名 平日 8 名試算 助成金 計		240,000 円 432,000 円 769,000 円 1,441,000 円
支出見込額 (項目ごとに金額を記すほ か、合計も記入)	【助成金内訳】 物品費 旅費交通費 使用料及び賃借料 報償・謝礼費 事務費 小計 繰越金 合計		241,400 円 10,560 円 170,000 円 516,000 円 24,000 円 961,960 円 479,040 円 1,441,000 円
備考			
作成年月日	平成 29 年 6 月 30 日	作成者名	下山康博

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	はまどまで土間仕事		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	勝野真美		
スタッフ (リーダーを除く)			
目的 (箇条書きで記入)	季節の手作り保存食品以外にも、いつも買うものを家で気軽に、手作りで味わう。野菜市で買えるもので作れば、尚良し。		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	昔の女性たちの土間仕事を、現代のはまどまで…知らない人同士でも、ここに来ると安心できる、ホッとできる「横浜の土間」をめざす。手縫いの会も発足させる。		
内容	主に神奈川県産の素材を使って季節の保存食を作っていく。		
日時	2 か月に1回(できれば月1でやっていきたい)		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)	他の使用にあたらな、どこか1日を使用		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	参加費収入：3,500 円×7名=24,500 円 参加費：3,000 円～5,000 円 参加者数 7 名		
支出見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	はまどま使用料：一人 500 円×7名=3,500 円 素材によって金額が違うが、材料代で1人 1000 円ほど 1,000 円×7 人=7,000 円と、講師に 3,000 円ほどのお礼 人件費、管理費 11,000 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)			
作成年月日	2017 年 8 月 10 日(木)	作成者名	勝野真美

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	はまどま手習い塾～季節の素材でスイーツメイキング		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	山本美香		
スタッフ (リーダーを除く)	勝野真美		
目的 (箇条書きで記入)	火曜日の NORA 野菜市と連動させることで、野菜市のお客さんや、ご近所さんも常連に引き込み、旬の神奈川野菜をスイーツや美香さんならではのレシピを展開することで野菜や果物の新たな可能性を味わってもらい、購入にも結び付ける。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	野菜市からのお客さんをもっと増やしたいのと、17 期は親子連れが特に多かったので、「はまどま」ならではの、神奈川野菜で食育的な企画も開催したい。		
内容	NORA 野菜市で販売している旬の神奈川野菜や果物を使い、メニューを決め、ある程度までスイーツを作成してきてもらい、最後の仕上げは、参加して下さった方に1手間、加えてもらう。野菜のおいしさ、果物の旬を思い切り楽しんでもらう。		
日時	月1回、講師都合に合わせた火曜日		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	月1回、講師都合に合わせた火曜日		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額 (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	参加費…大人 NORA 会員は 1,800 円。会員以外は 2,000 円、中学生 800 円、小学生 500 円、未就学児無料 大人 15 人前後(会員5名、会員以外 10 名)、小学生5名前後を今後呼び込みたい。 …1,800 円×5=9,000 円、2,000 円×10=20,000 円、500 円×5=2,500 円で約 31,500 円		
支出見込額 (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	材料費:7,000 円 謝礼:3,000 円 人件費・管理費:21,500 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)			
作成年月日	2017 年 8 月 10 日(木)	作成者名	勝野真美

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

※プロジェクト内容によって行や項目を増やしたり、別紙を用意したりするなど、適宜、工夫してください。

プロジェクト名	身近な素材で簡単おいしい薬膳ごはん		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	内倉和子		
スタッフ (リーダーを除く)	勝野真美		
目的 (簡条書きで記入)	身近な素材の組み合わせで、季節の流れと体に良い献立ができる。それを参加者とともに素材に触れ、匂いを聴きながら作っていく…薬膳の要素と、神奈川野菜の組み合わせを十分に味わう。		
目標 (今期の具体的な目標を簡条書きで記入)	体の声を聴きながら作る、季節を感じながら作る、素材の1つ1つの匂いを再確認しながら献立を組み合わせ、味わいながら腹に「具合」を聴けるようになることの始めの一步を共有したい。		
内容	薬膳料理教室のメニューを基に、神奈川野菜と匂いの素材を使って献立を作る。料理から参加と食べるだけメンバーを設けて、気軽に参加できるようにしている。		
日時	月1回、講師都合に合わせた日曜日(基本、第2日曜日)の 10:00～14:00		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)	月1回、講師都合に合わせた日曜日(基本、第2日曜日)		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	<p>作る人、食べるだけの人共通：2,500 円(会員 2,000 円)</p> <p>未就学児対象のハーフサイズ：1,000 円</p> <p>※前売り回数券 5 回分(有効期限 1 年)：10,000 円</p> <p>はまどまのキッチンの広さの都合で、5 名がいっぱい。 2,500×5=12,500 円</p>		
支出見込額 (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	<p>はまどま協力金：500×5=2,500 円</p> <p>食材費：5,000 円</p> <p>管理費：5,000 円</p>		
備考(他団体との連携等を適当に記入)			
作成年月日	2017 年 8 月 10 日(木)	作成者名	勝野真美

■NORA 第 17 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	はまどま手習い塾～お香のてならい		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	粕谷恵(静流)		
スタッフ (リーダーを除く)	なし		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・お香を通して自然界の恵み(思考)が人の持つ本来の力をあげてゆくことを感じてもらう ・地球、自然からいただく恵みにより、調和や循環を感じてもらう(※自然界・人間・自然界と人間に起こる調和と循環を考えるきっかけ) 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・お香本来の世界観とその原材料である香原料(里山に自生する野草、木々、花など)との関わりをもう少し目に見える形にして伝える。 ・里山の植物から香原料づくり、実際に植物採取などもやってみたい。 		
内容	天然、自然の原料でお香(匂い袋、線香、塗香、練香 etc)の手作り体験をしていただく。お香づくりを通して、心身の調和をよt感じていただけると尚よい。		
日時	金曜日の夜の時間帯 18:00～20:00(18:30～20:30) 他の曜日も不定期に開催希望(個人的にも開催の予定)		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	毎月4回×12ヶ月=48回+α		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	参加費 3,500 円～3,800 円		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)			
収支見込額(a-b)			
備考(他団体との連携 等を適当に記入)			
作成年月日	2017 年 8 月 10 日(木)	作成者名	粕谷恵(勝野真美)

■NORA 第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	はまどまシアター		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊・中川美帆		
スタッフ (リーダーを除く)	島村雅英・川上友之・勝野真美・川嶋一平		
目的 (箇条書きで記入)	日本列島で暮らした人々の生活の技術、自然とのかかわり、祭祀、などの記録映像を鑑賞し、話し合うことをとおして、現代の暮らし方を考える一助にしたい。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	計画的な上映活動の推進。		
内容	年間計画の作成・上映日程と上映作品 上映推進メンバー対象の試写会の開催 メーリングリスト・ホームページに加え、チラシ・ポスターの作成		
日時	原則的に毎月第 4 日曜日に開催。		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	別途(ホームページに記載)		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額 (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	参加費 2000 円×参加人数 10 名×10 回=200,000 円		
支出見込額 (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	上映手数料 1500 円×参加人数 10 名×10 回=150,000 円 飲食素材等 300 円×参加人数 10 名×10 回 30,000 円 はまどま協力金:200 円×参加人数 10 名×10 回=20,000 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)	共催:郷土映像ラボラトリー		
作成年月日	2017年8月9日	作成者名	三好豊

■NORA/第 18 期プロジェクト計画書(2017 年 7 月～2018 年 6 月)

プロジェクト名	匂の里山探訪		
カテゴリー	イキモノ		
リーダー	吉武美保子		
スタッフ (リーダーを除く)	新治里山公園運営プロジェクトのメンバー (新治里山「わ」を広げる会への協力)		
目的 (箇条書きで記入)	新治の自然の魅力をその折々に伝えることで、大切に思う仲間を増やすこと。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなメンバーが加わって、スタッフとして対応できるようになること。 ・リピーターがサポーターになるような仕組みをつくる。 		
内容	午前中 2 時間程度のルートで、テーマに沿った解説を行いながら、散策する。 スタッフは 2～3 名。		
日時	毎月第 1 水曜。午前 10 時～12 時		
場所	にいはる里山交流センター集合		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	<上記参照> 8 月、1 月はお休み		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	200 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	にいはる里山交流センター事業への協力のため、NORA への収入はなし。		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)			
収支見込額(a-b)			
備考 (他団体との連携等を適 当に記入)	新治里山「わ」を広げる会／新治里山公園運営プロジェクトへの協力		
作成年月日	2017 年 8 月 10 日	作成者名	吉武美保子

第4号議案 第18期(2017年7月~2018年6月) 予算

[収入]

科目	第16期決算額	第17期予算額	第17期決算額	第18期予算額	備考
会費	396,000	380,000	316,000	380,000	運営会員@12,000*15+一般会員@3,000*50+賛助会員@10,000*5
寄付金	1,994,590	2,000,000	2,555,789	1,800,000	かんぼ生保1,000千円、ブルデッシュ生保、エコアップ研270千円、個人寄付
助成金	1,689,464	2,240,000	2,551,400	1,589,000	神奈川県850千円、緑の募金410千円
自主事業	1,212,028	2,400,000	1,466,395	1,800,000	竹細工672千円、どま他1,000千円(野菜市300千円)、各事業参加費等
販売収入	277,452	180,000	410,659	200,000	チェーンソー関連消耗品販売
受託	1,959,040	2,150,000	5,323,624	3,000,000	長浜トボ993千円、ヒトボ指導984千円、野島調査399千円ほか
雑収入	90,048	80,000	169,755	250,000	『JA広報通信』180千円、講師謝金等
当期収入合計(A)	7,618,622	9,430,000	12,793,622	9,019,000	

[支出]

	科目	第16期決算額	第17期予算額	第17期決算額	第18期予算額	備考
事業人件費	給料手当	0		0		研究員給料
	臨時雇賃金	0		0		
	福利厚生費	0		0		
	法定福利費	0		0		社会保険料、労災保険料
事業経費	事業委託費	2,619,000	2,800,000	4,928,607	3,600,000	受託事業、山仕事、デザイン料、外注費
	諸謝金	1,153,270	1,800,000	1,674,114	1,400,000	竹細工、講座講師謝礼
	印刷製本費	7,750	30,000	21,312	30,000	報告書印刷、コピー代
	会議費	2,655	15,000	70,154	15,000	会議室料、茶代等
	旅費交通費	41,720	100,000	123,230	100,000	講師旅費
	通信運搬費	0	20,000	6,994	20,000	郵送料、宅急便、備品送料
	消耗品費	830,870	1,100,000	1,298,001	1,100,000	チェーンソー等ヤマ道具、工具、はまどま事業経費
	器具備品費	245,376	250,000	344,200	250,000	
	修繕費	0	40,000	0	40,000	
	賃借料	15,000	40,000	234,796	200,000	チップー、レンタカー借上
	減価償却費	70,534	48,457	55,319	50,000	簡易製材機、クローラー式運搬車
	保険料	90,866	145,000	97,602	100,000	グリーンボランティア保険、イベント保険
	調査研究費	0	40,000	5,504	40,000	資料購入、研修会参加
	支払手数料	5,854	10,000	10,628	10,000	
	広告宣伝費	0	10,000	0	10,000	
管理費	販売仕入	226,737	150,000	329,844	170,000	チェーンソー関連消耗品仕入170千円
	雑費	4,973	30,000	5,643	30,000	
	業務委託費	0	0	100,000	100,000	経理・決算・納税委託
	通信運搬費	109,550	120,000	95,162	120,000	電話・通信、ネット使用料
	消耗品費	18,290	40,000	34,940	40,000	会計ソフト等
	水道光熱費	117,575	140,000	116,923	140,000	
	地代家賃	972,000	972,000	972,700	972,000	家賃@81,000*12
	接待交際費	0	10,000	16,200	20,000	
	諸会費	20,400	20,000	21,900	20,000	町内会費、ネットワーク団体会費
	租税公課	4,500	5,000	1,200	5,000	
経常外	支払手数料	63,570	65,000	29,070	35,000	ネットバンキング25千円、振込手数料
	雑費	7,204	5,000	517	5,000	
	固定資産除却損	0	0	0	0	
	法人税、住民税及び事業税	74,500	74,500	74,500	74,500	
当期支出合計(B)	6,702,194	8,079,957	10,669,060	8,696,500		
当期収支差額(A)-(B)	916,428	1,350,043	2,124,562	322,500		

第5号議案 役員選任

下表のとおり、すべての理事・監事を再任する。なお、役員任期は2年である。

理事	石田 周一	社会福祉法人同愛会
理事	島村 雅英	横浜エコアップ研究所
理事	中川 樗	中学校理科教員
理事	中林 博志	社会福祉法人あおぞら 理事
理事	松村 正治	恵泉女学園大学 教員
理事	三好 豊	神奈川・緑の劇場 代表
理事	吉武 美保子	新治里山「わ」を広げる会
監事	平石 真司	特定非営利活動法人 日本の竹ファンクラブ 理事長

第6号議案 定款変更

NPO法の改正にともない、貸借対照表の公告の方法を定める必要が生じたことから、公告方法を全体的に見直し、その方法を下表のとおり定める。

	新（変更後）	旧（変更前）
変更の内容	特定非営利活動法人よこはま里山研究所 定款	特定非営利活動法人よこはま里山研究所 定款
	略	略
	第9章 公告の方法 (公告)	第9章 公告の方法 (公告)
	第49条 この法人の公告は、この法人のホームページに掲載して行う。公告について必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。	第49条 この法人の公告は、この法人の発行する機関誌に掲載するとともに、神奈川新聞に掲載して行う。公告について必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。
	略	以下略
	附則 この定款は、平成29年8月19日から施行する。	